生産8・技術1・流通6・外食2氏に

第55回 食品産業功労賞

日本食糧新聞社制定
農林水産省後援

受賞者名（部門別・五十音順・受賞理由）

〈生産部門〉

伊藤 秀二氏（カルビー代表取締役社長兼CEO）
▽スナック、シリアル等製菓産業発展貢献
▽東証上場、グループ持続的経営、戦略的経営及び活動貢献

河邉 哲司氏（久原本家グループ本社主）
▽醤油等調味料食品等国内外多彩な販路開拓、文化発酵食品等北海道等地域振興活性化社会貢献

小高 愛二郎氏（エイワ代表取締役会長兼CEO）
▽マシュマロトップ定番菓子等受賞、海外普及促進拡大
▽開発ヒット等受賞、海外発展貢献
▽業界全国団体等組織運営、文化内外普及貢献

下嶋 正雄氏（日東富士製粉代表取締役社長）
▽製粉事業効率化、コスト等完服発展貢献
▽ベトナム、タイ等製造販売基盤確立貢献
▽製粉協会会長等業界団体運営推進貢献

長南 収氏（キユーピー相談役）
▽マヨネーズ・ドレッシング等産業振興貢献
▽サラダ・卵等食文化訴求普及拡大推進貢献
▽惣菜業界初機能性表示食品等活性化貢献

野並 直文氏（崎陽軒代表取締役会長）
▽シウマイ誕生90年余普及拡大
▽横浜名所名物創り一筋、地域活性化貢献
▽地域業界団体等組織運営、開発奉引貢献

三島 豊氏（三島食品代表取締役会長）
▽業務用・家庭用ふりかけ産業普及拡大
▽「ゆかり」等ヒット商品創造市場活力貢献
▽業界団体等組織運営、ふりかけ食文化貢献

盛田 淳夫氏（敷島製パン代表取締役社長）
▽製パン・製菓産業等内外多彩多様業務拡大貢献
▽食パン「超熟」等業界活性化奉引貢献
▽業界団体、地域社会活力推進拡大行動貢献

〈技術部門〉

門脇 清和氏（クレオ会長）
▽洗浄機開発等で食品工場衛生管理向上貢献
▽洗浄剤洗浄システム技術研究等衛生貢献
▽業界団体組織運営等食品機械技術開発貢献

〈流通・情報部門〉

荒木 章氏（カナカン代表取締役会長／トモシアホールディングス代表取締役社長）
▽北陸信越地域密着卸業使命活性化推進貢献
▽旭食品、カナカン、丸大堀内3社統合発展貢献
▽各社歴史風土地域食文化新使命融合拡大貢献

川田 一光氏（東京青果代表取締役会長兼社長）
▽荷受けから青果物流通商社脱皮推進貢献
▽業界団体流通基盤拡大生産性向上等改革貢献
▽業界団体流通組織運営、日本食文化活性化貢献

三枝 富博氏（トーヨーカ堂取締役会長）
▽総合スーパー経営、新構造改革等推進
▽変わる生活、小売業態変化対応挑戦貢献
▽業界組織運営、海外事業等推進貢献
▽低温度帯基盤強化、総合卸業トップ推進
▽フルライン機能強化、要冷物流各種戦略貢献
▽食品ロス削減等、省エネ社会支援型活動貢献

佐々木淳一氏（日本アクセス代表取締役社長社長執行役員）
▽商品流通情報提供システム推進貢献
▽DX化推進共通化合理化推進貢献
▽流通インフラ基盤活用貢献

西田 邦生氏（ジャパン・インフォレックス代表取締役社長）
▽食品卸共同出資会社軌道化、情報基盤提供貢献
▽食品卸業界情報提供システム推進貢献

森山 透氏（三菱食品前代表取締役社長）
▽総合食品商社として事業領域拡大推進貢献
▽三菱系卸業4社の統合推進、拡大進捗貢献
▽食品卸業界の強化発展、協調促進貢献

〈外食部門〉

近藤 正樹氏（日本KFCホールディングス顧問）
▽コロナ禍対応型店舗創出推進貢献
▽日常消費拡大による業績大復貢献
▽日本食鳥産業、安定的発展寄与貢献

堀 冨士夫氏（デリカスイト相談役FOUNDER／日本惣菜協会元会長）
▽惣菜産業人意識改革、惣菜産業振興発展貢献
▽SOZAI文化世界、地域内再投資健康貢献
▽業界全国団体等運営、生活者食調理提唱貢献
▽商品流通情報システム推進貢献

業界発展と隆盛に貢献

日本食糧新聞社制定、農林水産省後援の第55回（令和4年度）食品産業功労賞は1日、東京・紀尾井町のホテルニューオータニ東京で贈呈式が開催される。今回は生産部門8氏、技術部門1氏、流通部門6氏、外食部門2氏の17人に贈られる。賞の目的は、わが国食品産業界の発展と隆盛に大きく貢献し、偉大な功績を残してきた功労者の顕彰。1967（昭和42）年、日本食糧新聞の創刊25周年を記念して制定した。これまでに生産部門で342人、技術103人、流通191人、外食34人、特別賞18人の累計688人を表彰した。歴代の農林水産大臣をはじめ、食品・酒類・流通の各業界、関連する産官学から約300人が参加し、受賞者をたたえる。（吉岡勇樹）

生産部門

伊藤 秀二氏（いとう・しゅうじ）

カルビー代表取締役社長兼CEO＝1957年2月25日生まれ、福島県出身。

社長就任後、売上高を倍増させるなどカルビーを国内有数の製菓メーカーに成長させた。09年、米国ペプシコ社とスナック事業で資本・業務提携契約締結を推進し、11年3月、東京証券取引所第1部上場を実現。20年8月には、ホクレン農業協同組合連合会と連携協定を締結。日本の農業とスナック産業の発展のための大きな役割を果たした。

河邉 哲司氏（かわべ・てつじ）

久原本家グループ本社社主＝1955年4月17日生まれ、福岡県久山町出身。

4代目を継いだあと、「椒房庵（しょぼうあん）」「茅乃舎（かやのや）」などのブランドを本格展開。全国へ向けたアゴに代表される九州の食文化の普及で貢献するとともに、近年は北海道産原料を使った食品の開発に努める。欧米では製菓材料のマシュマロを菓子として日本の食生活に浸透させた。全日本菓子輸出促進協議会理事長として日本の菓子を積極的に海外に広げる活動を積極的に展開。さらに、全日本菓子工業協同組合連合会理事長として菓子産業の発展に貢献している。

小高 愛二郎氏（こだか・あいじろう）

エイワ代表取締役会長兼CEO＝1954年11月2日生まれ、東京都出身。

マシュマロ専業のオンリーワン企業であるエイワのトップとして、日本のマシュマロ市場をけん引していく。

下嶋 正雄氏（しもじま・まさお）

日東富士製粉前代表取締役社長＝1952年2月8日生まれ。

社長就任後から「原料調達・製造・販売・開発・物流」全部門の

流通・情報部門

荒木 章氏（あらき・あきら）

カナカン代表取締役会長、トモシアホールディングス代表取締役社長＝1954年8月28日生まれ、石川県出身。

入社以来酒類一筋で、石川・富山・福井の営業所長を経験し販路を開拓。製配販一体となって、酒類・食品市場を盛り上げ、売上げに貢献する。得意先との関係づくりに邁進し、食文化を育てる思いを大切にしてきた。

トモシアHD代表取締役に就任して縦割りだった組織を改革。支店制へ変更し、得意先本位かつ「商は笑なり」と社員の育成に注力。社外では、北陸三県卸売酒販組合理事長、金沢経済同友会常任理事などの要職を務める。

川田 一光氏（かわだ・かずみつ）

東京青果代表取締役会長兼社長＝1951年7月生まれ、東京都出身。

青果業界で約40年間、荷受けから流通商社への脱皮を目指し、国内生産青果物の約8割を占める卸売市場活性化に取り組んできた。市場流通の規制緩和をビジネスチャンスにナンバーワン企業となり、円滑かつ安定的に青果物を供給。適正な価格形成にも貢献してきた。業界団体の代表も務め、青果物の消費拡大を通じて、日本食文化の維持・発展に

技術部門

門脇 清和氏（かどわき・きよかず）

クレオ会長＝1941年3月18日生まれ、東京都出身。

75年に大阪、78年に東京でクレオを設立し、82年に東京を存続会社として一本化した。76年に容器洗浄機に参入してからはパレット洗浄機、折りたたみ式コンテナ洗浄機、パレット用遠心脱水機をはじめ、洗剤の研究開発・販売も手掛けることで食品製造現場での衛生管理向上に大きく貢献した。

容器洗浄機市場でのシェアは50％超と、食品製造現場で欠かせない存在。

日本食糧新聞

日本食糧新聞社
東京都中央区八丁堀2-14-4
ヤブ原ビル（〒104-0032）
news.nissyoku.co.jp
編集・広告☎03(3537)1303
購読☎03(3537)1311
【支社局】北海道☎011(866)0721/東北☎022(225)2721/新潟☎025(240)8810/長野☎026(228)5520/中部・静岡☎052(571)7318/関西☎06(7664)3801/中国☎082(223)2535/九州☎092(291)1790
購読料 半年33,352円（本体30,882円＋税8％・前金）
©日本食糧新聞社2022年

食品産業功労賞記念

門脇 清和氏 クレオ会長

技術部門

受賞者プロフィル

〝総合提案企業〟へと進化

かどわき・きよかず　1941年3月18日生まれ、東京都出身。63年関西学院大学卒業。75年に大阪、78年に東京でクレオを設立し社長に就任。その後、82年に東京を存続会社として一本化し、発展に尽力。2020年会長就任。公職では日本製パン製菓工業会理事も務めて、洗浄機だけではなく食品機械の開発も支えてきた

東洋ベアリング製造（現NTN）に勤めていた門脇清和氏を含む3人の社員が同社を退職して1975年に設立したのがクレオだ。当初は外食産業向けの業務用食器洗浄機を手掛けていたが、大手電機メーカーが参入してきたことから撤退した。次に目を付けたのが容器洗浄機。そして門脇会長は「食品加工業に特化し、容器洗浄機の開発から製造、販売までを一手に手掛けることで、同分野でのトップシェアを取る」ことを決意したという。

76年に容器洗浄機に参入したのを手始めに、パレット洗浄機、折りたたみ式コンテナ洗浄機、パレット用遠心脱水機など次々に開発・販売した。販路も大手スーパーマーケット、乳業メーカー、製パンメーカーへと広げていった。

そして次のステップは、洗剤の開発・販売、洗浄マニュアルの作成まに応じて洗浄機をカスタマイズし、その洗浄機に合った洗剤、洗浄方法、メンテナンス方法までを提案できるのは当社だけだと思う」という門脇会長の

顧客に寄り添い続ける

・講習会といった総合的な提案ができる企業への進化だ。同社では洗浄の4大要素として「T・A・C・T」を掲げている。Tが洗浄時間、Aが物理的作用、Cが化学的作用、Tが洗浄温度だ。こういった科学的研究を続けるとともに、お客さまに寄り添った提案を続けることで「洗浄機のクレオから洗浄のクレオ」へ大きな飛躍を遂げていった。

「それぞれのお客さコメントに、洗浄のクレオに進化できたことへの自信の一端が垣間見える。

同社の経営方針は三つある。一つ目が「クレオは創造する」、二つ目が「クレオは社会に貢献する」、三つ目が「クレオは社員の会社である」だ。門脇会長が日本製パン製菓工業会理事も務めて、洗浄機だけではなく食品機械の開発も支えてきたという実績が、社会貢献の一つとして該当するだろう。社員の会社であるということを実証するために、創業メンバーを含めて役員の子弟を入社させないのだという。門脇会長が築いた礎は、いまも社内で脈々と息づいている。（木下猛統）

「容器洗浄」で絶大な信頼

企業概要

クレオは「美感、衛生、環境のクレオ」をモットーに技術とサービス向上に努めている。容器洗浄で顧客からの信頼は絶大で、国内市場では容器洗浄機で50%以上、容器洗浄機向け洗剤で30～40%のシェアを誇る。

売上高は99億6200万円（21年12月期）。洗浄の現場では、「T・A・C・T」のバランスを最も重要とし、常に最適を意識した質の高い総合サニテーションを提案している。